

横山大観

YOKOYAMA TAIKAN



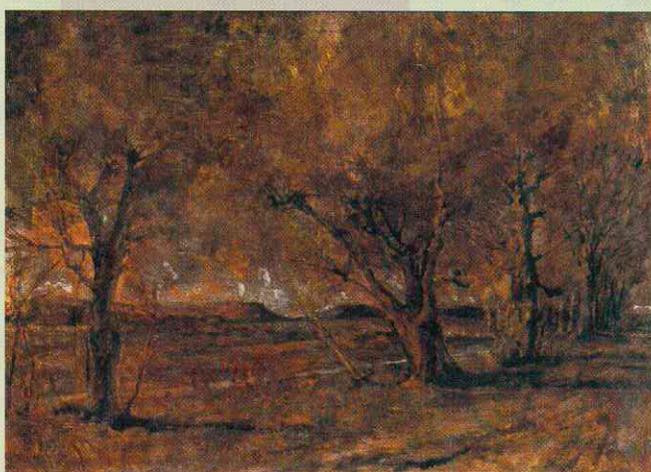
霊峰不二

収蔵美術品展

平成二十一年十月十日(土)～十二月六日(日)

藤田嗣治

FUJITA TSUGUHARU



佛印風景

河鍋曉斎

KAWANABE KYOSAI



ねずみの図

◆主催：狭山市立博物館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

入館料：一般150円（100円）

高校生・大学生100円（60円）

小学生・中学生50円（30円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※土曜日は小・中学生は無料です。

休館日

10月	13日・19日
	23日・26日
11月	2日・4日
	9日・16日
	24日・27日
	30日

講演会：『狭山の絵本』とわたし

日時 平成21年11月8日(日) 14時00分から
 講師 池原昭治氏 童絵作家 日本漫画家協会会員
 場所 狭山市立博物館 研修・講義室
 定員 60名（受講希望の方は10月20日(火) 午前9時から電話でお申し込みください。）

 狭山市立博物館

<http://www.city.sayama.saitama.jp/museum/>

〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1
 TEL04-2955-3804 FAX04-2955-3811

※ご来館の際は、電車・バスのご利用が便利です。



収蔵美術品展

【ごあいさつ】

狭山市は、「緑と健康で豊かな文化都市」を基調とした街づくりを進めておりますが、その一環として公共施設へのモニユメントの設置や、美術品の受け入れなどを行ってまいりました。

とくに平成元年度からは、市民の芸術文化の振興に資するために「美術品等取得基金」を設置して積極的に美術品を購入するとともに、それらの作品の多くを市内の公共施設に展示し、鑑賞に供してまいりました。

二十八点を企画展で取り上げました。しかしながら、これらは当市所蔵美術品の一部に過ぎませんでした。

今回の企画展では、当館の収蔵品の中でとくに美術的価値の高いもの、また、これまで市民のみならず鑑賞していただく機会が少なかった美術品を一堂に公開します。

この機会に当館収蔵の美術品を鑑賞していただき、当市の芸術文化活動の一端に触れていただければ幸いです。

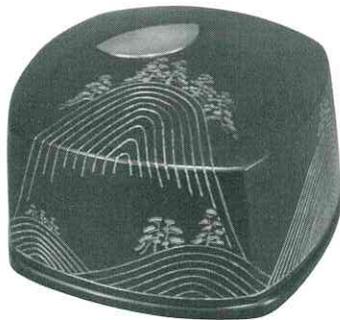
最後になりましたが、本企画展の開催にあたりご協力を賜りました関係各位に対して厚く感謝申し上げます、開催のごあいさつといたします。

平成二十一年十月
狭山市立博物館

資料の保存環境が整うと、これまで市が受け入れた美術品で展示する機会に恵まれない作品が、当館に収蔵されるようになり、その後も、資料の寄贈・寄託により収蔵品はいっそう充実し、その中には美術的価値の高いものも数多く含まれています。これらの美術品は、博物館のホールや絵画展示コーナーで順次展示し、平成七年度には「美術品等取得基金」で購入した作品



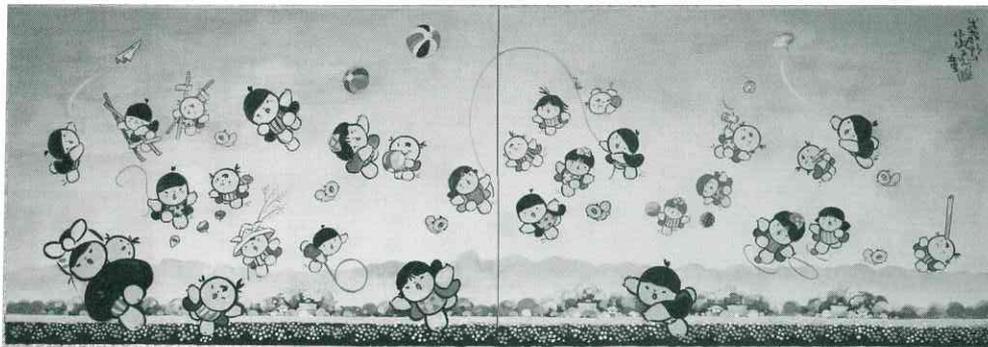
三木貞夫「ナーガル・ジュナ」



伊藤廣利「蓋物」



堀江祥山「備前四方花入」



池原昭治
「武蔵野の伝承あそびと童」

狭山市立博物館

<http://www.city.sayama.saitama.jp/museum/>
〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1 (狭山稲荷山公園内)
電話：04-2955-3804 FAX：04-2955-3811

- ◆西武池袋線「稲荷山公園駅」より徒歩約3分
- ◆西武新宿線「狭山市駅」西口よりバス「稲荷山公園駅行」終点で下車、徒歩約3分
- ◆圏央道狭山日高インターより車で約15分



収蔵美術品展

Sayama Art Collection

平成二十一年十月十日(土)～十二月六日(日)



霊峰不二

藤田嗣治

FUJITA TSUGUHARU



佛印風景



ねずみの図

横山大観

YOKOYAMA TAIKAN

河鍋暁斎

KAWANABE KYOSAI

◆主催：狭山市立博物館

 狭山市立博物館

<http://www.city.sayama.saitama.jp/museum/>

【ごあいさつ】

狭山市は、「緑と健康で豊かな文化都市」を基調とした街づくりを進めておりますが、その一環として公共施設へのモニュメントの設置や、美術品の受け入れなどを行ってまいりました。とくに平成元年度からは、市民の芸術文化の振興に資するために「美術品等取得基金」を設置して積極的に美術品を購入するとともに、それらの作品の多くを市内の公共施設に展示し、鑑賞に供してまいりました。

平成3年度に当館が開館して資料の保存環境が整うと、これまで市が受け入れた美術品で展示する機会に恵まれない作品が、当館に収蔵されるようになり、その後も、資料の寄贈・寄託により収蔵品はますます充実し、その中には美術的価値の高いものも数多く含まれています。これらの美術品は、博物館のホールや絵画展示コーナーで順次展示し、平成6年度

には「美術品等取得基金」で購入した作品28点を企画展で取り上げました。しかしながら、これらは当市所蔵美術品の一部に過ぎませんでした。

今回の企画展では、当館の収蔵品の中でとくに美術的価値の高いもの、また、これまで市民のみならず鑑賞していただく機会の少なかった美術品を一堂に公開します。

この機会に当館収蔵の美術品を鑑賞していただき、当市の芸術文化活動の一端に触れていただければ幸いです。

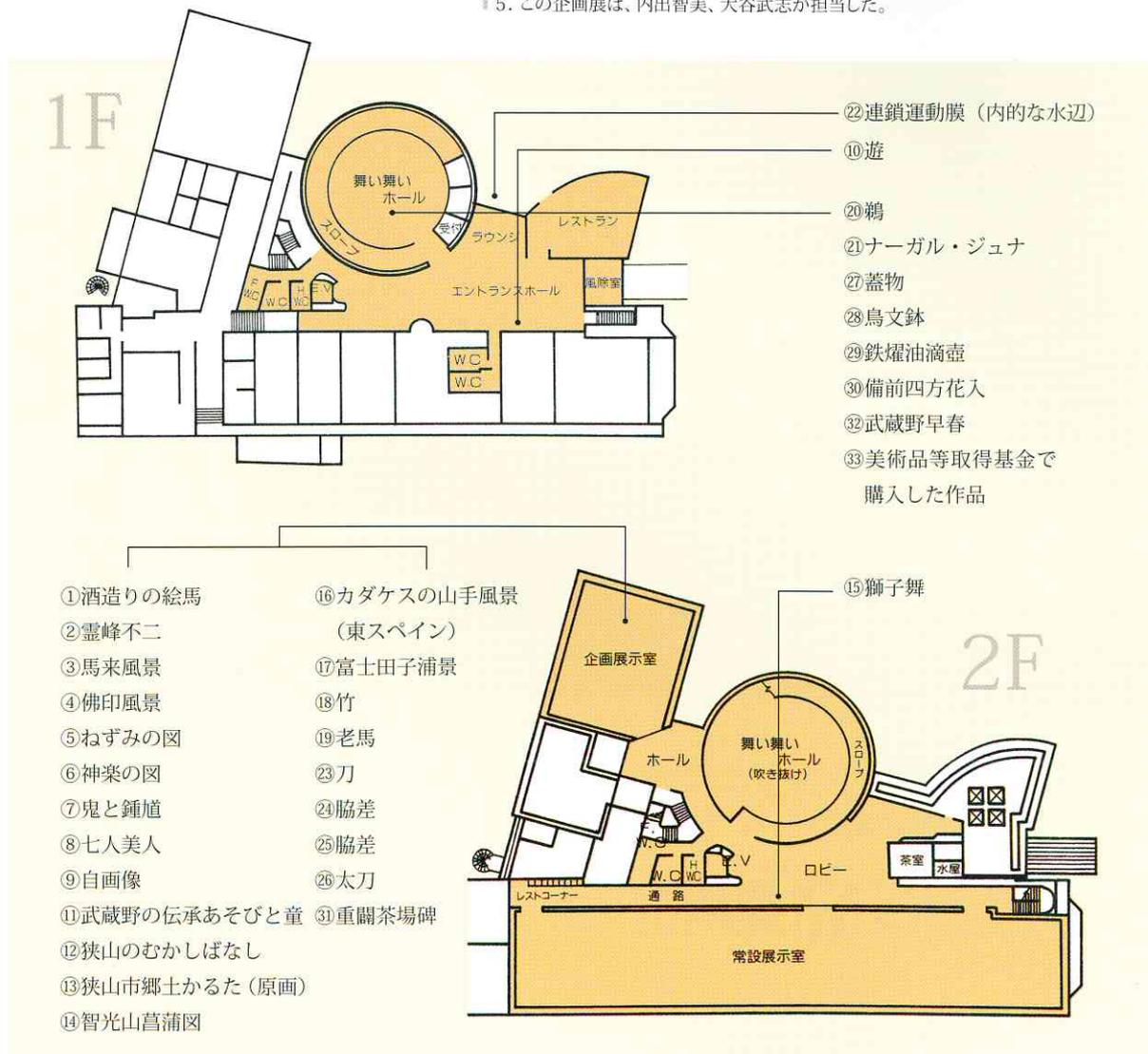
最後になりましたが、本企画展の開催にあたりご協力を賜りました関係各位に対して厚く感謝申し上げます、開催のごあいさついたします。

平成21年10月 狭山市立博物館

凡例

1. 本書は、平成21年10月10日(土)から12月6日(日)までを会期とする企画展「収蔵美術品展—Sayama Art Collection—」のパンフレットである。
2. 図版は展示資料の一部であり、展示資料は会期中に展示替えを行う場合がある。
3. 図版の番号は、展示番号と同じである。ただし、展示の順序とは必ずしも一致しない。
4. 図版は展示番号、作品名、年代(原則として西暦)、材質・技法、寸法の順に記載し、寸法はセンチメートルを単位とし、平面の場合はたて×よこ、立体の場合は、たて×よこ×高さ、または直径×高さで示した。
5. この企画展は、内出智美、大谷武志が担当した。

◆展示案内図



◆ 展示案内 ◆

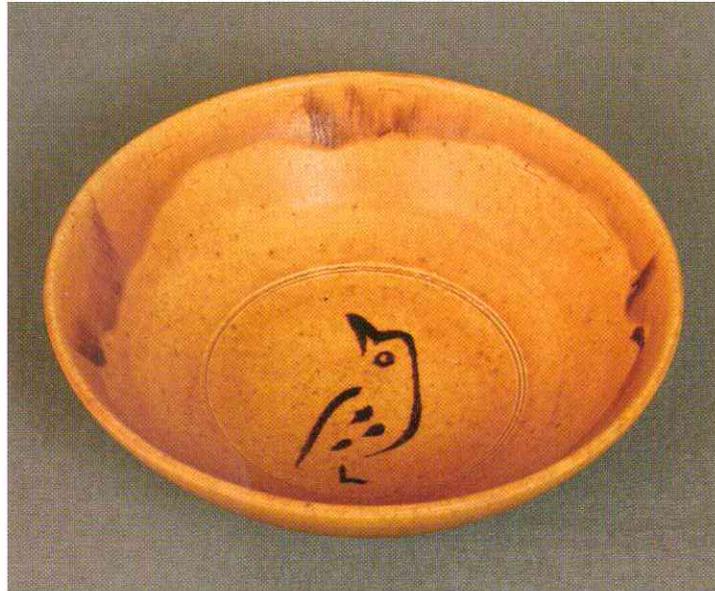
この企画展は、舞い舞いホールなど企画展示室以外でも作品を展示しております。企画展示室以外に展示された作品は、前のページの展示案内図を参照してください。なお、展示案内図中の数字は、展示作品の番号で、図版の番号と一致します。

③⑩ 備前四方花入 ◆堀江祥山



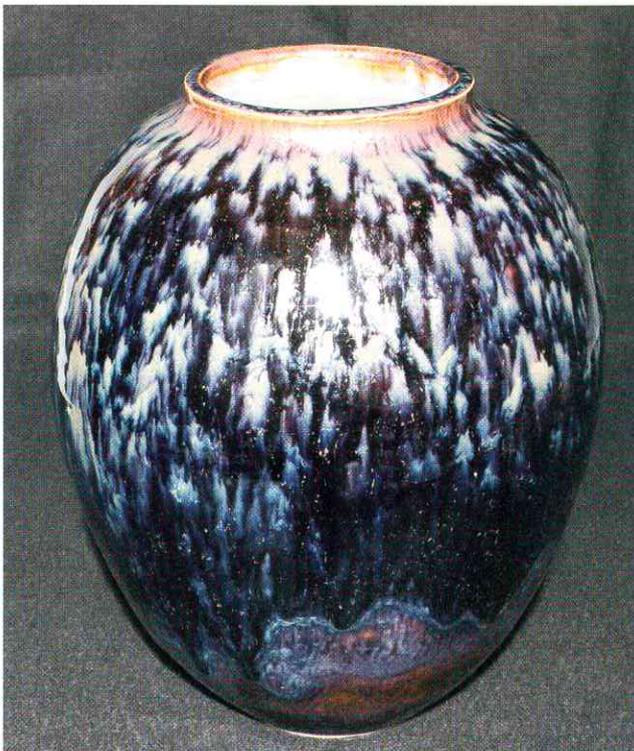
不詳 8.0 × 8.0 × 20.4

②⑧ 鳥文鉢 ◆大樋年郎



不詳 6.5 × 20.0

②⑨ 鉄耀油滴壺 ◆坂田実



不詳 25.0 × 30.0

③⑩ 堀江祥山（ほりえしょうざん）（1923 -）

本名寛之。岡山県勝田町生まれ。優秀技能者岡山県知事表彰。労働・通産大臣賞受賞。伝統展、日本工芸会中国支部展、日本陶芸展、岡山県美術展入選。備前陶心会初代会長。岡山県備前焼陶友会理事。

②⑧ 大樋年郎（おおひとしろう）（1927 -）

大樋窯9代目長左衛門の長男として石川県金沢市に生まれる。東京美術学校工芸科卒業。日展を中心に活躍。1987年十代目長左衛門襲名。1985年日本芸術院賞、2004年文化功労賞受賞。

②⑨ 坂田実（さかたみのる）（1936 -）

京都生まれ。京展入選。新匠会入選（佳作賞）。京都工芸美術展入選。近畿日本工芸会展入選（京都府教育委員長賞）。日本伝統工芸展入選。日本工芸会正会員。

⑳ 鶴 ◆三木貞夫



1931 檜 64.5

⑳伊藤廣利（いとうひろとし）（1939 - 1998）
中国東北部生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科美術教育教授。日展会員。日本現代工芸美術展、日展などで審査をつとめる。

㉑三木貞夫（みきさだお）（1909 - 1987）
福岡県生まれ。1927年山崎朝雲に入門。日本美術協会展に「鶴」を発表し銅賞受賞。第14回帝展初入選、以後文展、日展と入選する。第8回日展にて特選を受賞。

㉗ 蓋物 ◆伊藤廣利



1983 銅・鍍金 18.0 × 18.0 × 10.0

㉑ ナーガル・ジュナ ◆三木貞夫



1976 樟 79.0

⑩カダケスの山手風景（東スペイン） ◆田辺栄次郎



不詳 油彩・キャンヴァス 45.5 × 53.0

⑨自画像 ◆小谷野浩一



1942頃 油彩・キャンヴァス 40.5 × 32.0

⑩田辺栄次郎（たなべえいじろう）

（1910 - 1998）

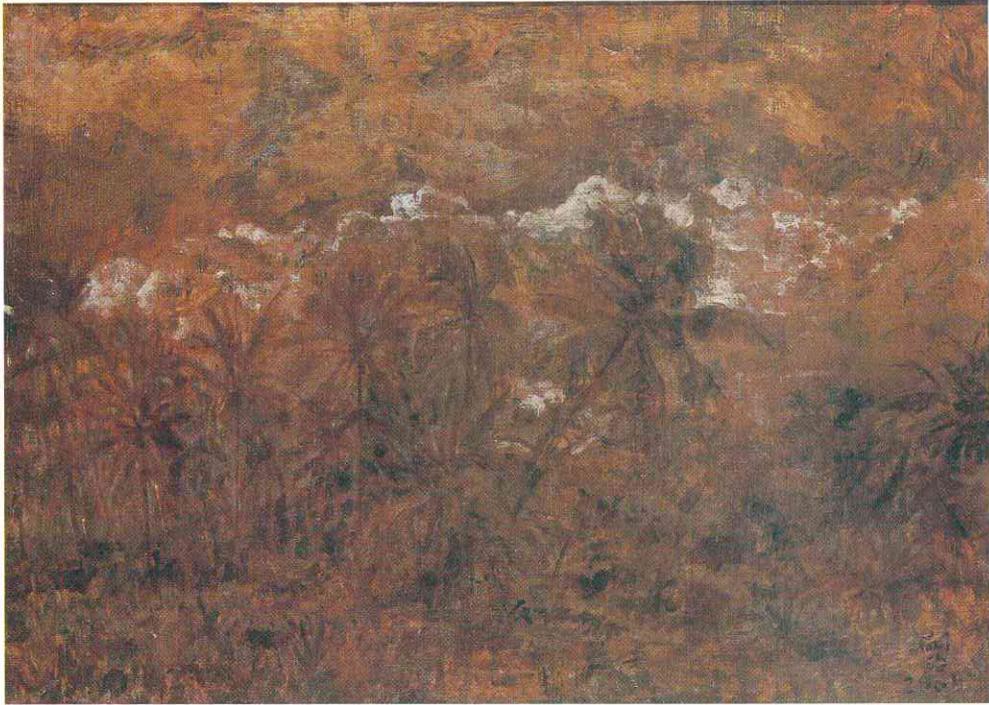
石川県生まれ。一陽会常任委員。元二紀会同人。

⑨小谷野浩一（こやのこういち）

（1905 - 1979）

本名儀平。埼玉県入間郡柏原村（現埼玉県狭山市）生まれ。狩野光雅に師事。日本画院展入選。第32回院展入選。柏原村議会議員、柏原村長、狭山市議会議員、狭山市教育委員等歴任。狭山地域の地方自治にも尽力。

③馬来風景 ◆藤田嗣治



1944 油彩・キャンヴァス 53.5 × 72.5

④佛印風景 ◆藤田嗣治



1944 油彩・キャンヴァス 53.5 × 72.5

③④藤田嗣治（ふじたつぐはる）（1886 - 1968）

東京生まれ。エコール・ド・パリの代表的な画家。猫と女性を得意な画題とし、日本画の技法を油彩画に取り入れ「乳白色の絵肌」と呼ばれる裸婦像などは西洋画壇の絶賛を浴びた。1957年フランス政府からレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章を贈られる。

⑱竹 ◆齊白石



不詳 紙本墨画 136.0 × 59.5

⑱齊白石（さいはくせき）（1863 - 1957）

中国湖南省湘潭県の人。清末から現代の人文画家、篆刻家。画、篆刻とも独学で学ぶ。1922年日中連合絵画展に出品、海外にその名が知られる。画は蛙やエビなどの小品を得意とし、洋画の感化を受けず中国の水墨・淡彩画の伝統を固守した。革命後、中国美術家協会主席を歴任。

⑲老馬 ◆徐悲鴻



1942 紙本墨画 65.5 × 54.0

⑲徐悲鴻（じょひこう）（1895 - 1953）

中国江蘇省宜興県の人。欧州に美術留学。1928年北京国立芸術学院院長、革命後は中央美術院院長を歴任。洋画家としても知られているが、伝統的な水墨画も描き、馬の絵は特に著名。

⑦鬼と鍾馗

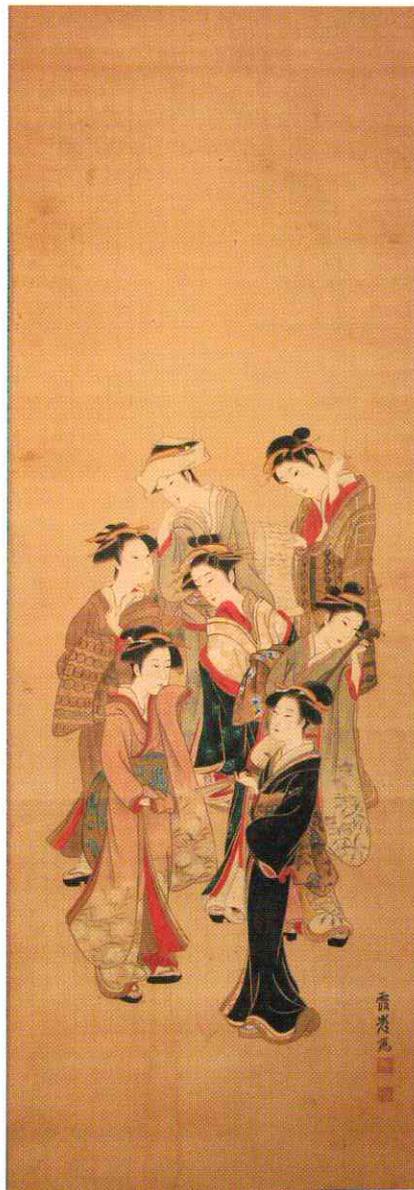
◆栗原霞崖



1930 絹本着色 111.0 × 42.0

⑧七人美人

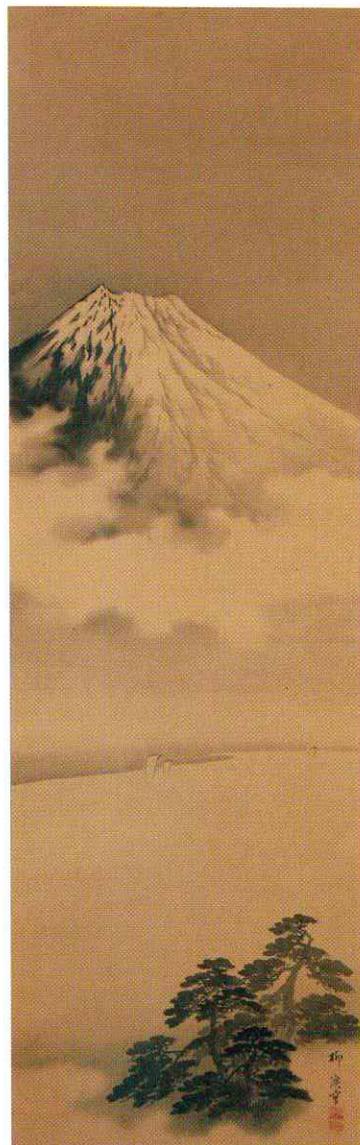
◆栗原霞崖



不詳 絹本着色 118.0 × 41.0

⑰富士田子浦景

◆岸浪柳溪



不詳 紙本着色 113.0 × 35.0

⑦⑧栗原霞崖 (くりはらかがい) (1861 - 1939)

本名伴司。武蔵国入間郡水野村（現埼玉県狭山市）生まれ。一川三光、高橋南崖等に師事し南画を修める。
いしかわさんこう たかはしなんがい
画題として花鳥風月、人物画を得意とした。画法は師に倣い南画を踏襲しているほか、河鍋暁斎、円山応挙等の画法も独学で取り入れている。

⑰岸浪柳溪 (きしなみりゅうけい) (1854 - 1935)

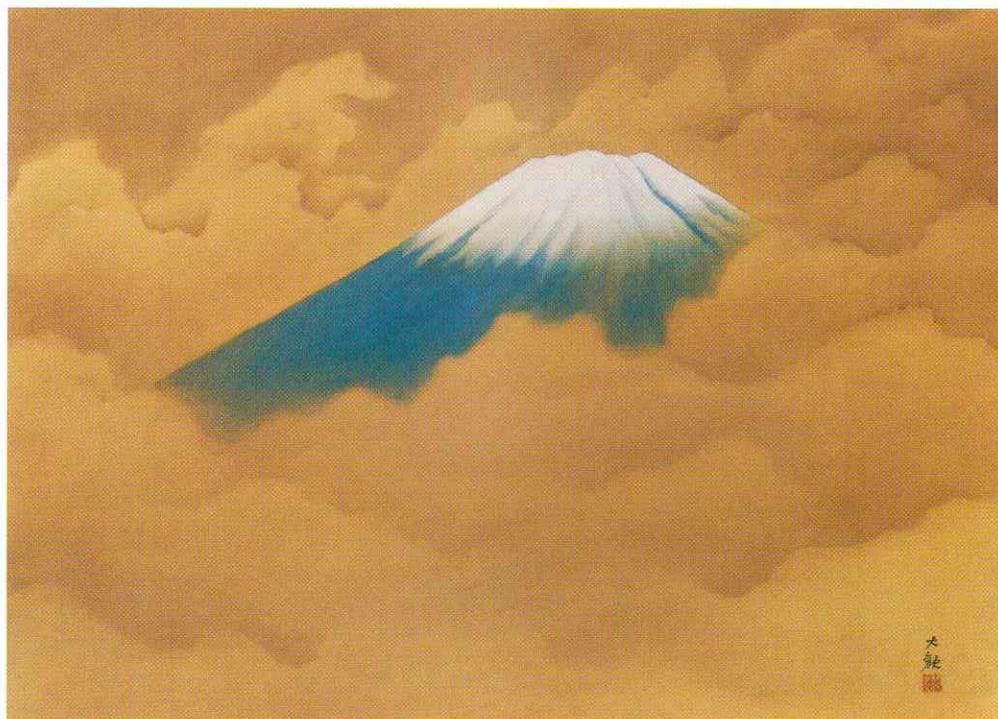
東京生まれ。本名静司。田崎草雲に師事。南画の大家として知られる。日本美術協会会員。日本南宗画会委員審査員。

⑭智光山菖蒲図 ◆鈴木至夫



不詳 紙本着色 60.0 × 80.0

②靈峰不二 ◆横山大観



不詳 絹本着色 80.5 × 108.5

⑭鈴木至夫（すずきのりお）（1929 - ）
現神奈川県茅ヶ崎市生まれ。1949年三橋兄弟治ら
と茅ヶ崎美術家協会の前身である茅ヶ崎美術クラブ
を結成。現在、日本美術院特待。

②横山大観（よこやまたいかん）（1868 - 1958）
本名秀麿。水戸生まれ。近代日本画壇の巨匠。日本
美術院の創設に加わる。「朦朧隊」と呼ばれる線描を
抑えた没線描法を確立。第1回文化勲章受章。

⑥神楽の図（部分） ◆河鍋暁斎



1880頃 板地着色 36.0 × 200.0

⑤ねずみの図（部分） ◆河鍋暁斎



1880頃 板地着色 36.0 × 200.0

⑤⑥河鍋暁斎（かわなべきょうさい）（1831 - 1889）

幼名周三郎。下総国古河（現茨城県古河市）生まれ。暁斎の門人で、東京湯島の靈雲寺から狭山市柏原の西浄寺に派遣された住職林法泉^{はやしほうせん}を1880年前後度々訪ねた際に描き残したといわれている。7歳のとき浮世絵師歌川国芳に師事し、その後狩野派の門人となり修行を積むほか、他の流派、画法も取り入れ、画題も仏画、山水、花鳥、美人画のみならず、戯画、挿絵等幅広く描いた。その筆力、写生力は海外でも高く評価されている。

⑫狭山のむかしばなし (部分) ◆池原昭治



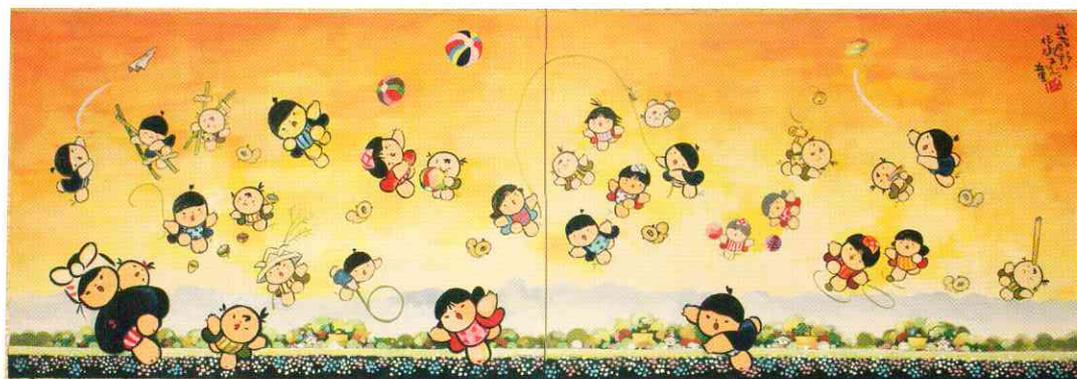
1987 彩色・紙 29.0 × 456.0

⑬狭山市郷土かるた (原画) ◆池原昭治



1973 彩色・紙 13.0 × 18.0

⑪武蔵野の伝承あそびと童 ◆池原昭治



2005 彩色・紙 58.0 × 178.0

⑪⑫⑬池原昭治 (いけはらしょうじ) (1939 -)

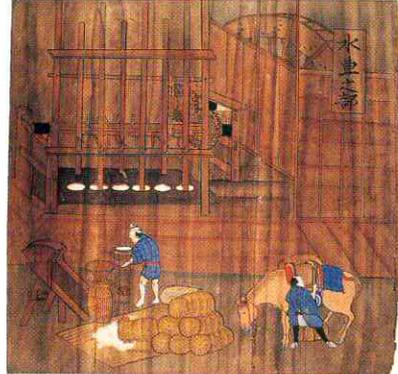
香川県高松市生まれ。狭山市や出身地香川県高松市のほか、日本各地の民話や昔話を訪ね歩き、「童絵^{どうえ}」という独自の画風を確立。1982年からテレビ「日本昔ばなし」の原作・演出・作画・美術(背景)を担当した。日本漫画家協会会員。

①酒造りの絵馬 ◆奥富竹外

1817頃 板地着色 41.5 × 43.0



(1)穀蔵之部：米の仕入れ



(2)水車之部：精米



(3)竹流之部：酒造りの準備（桶の修理と洗淨）



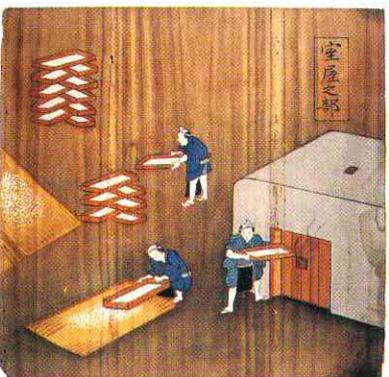
(4)廣敷之部：酒造り職人の食事



(5)米洗之部：米を研ぐ



(6)釜屋之部：米を蒸す



(7)室屋之部：麹（蒸米+麹菌）をつくる



(8)元取之部：酒のもと（蒸米+麹菌+酵母菌）をつくる

①奥富竹外（生没年不詳）

本作品は、文化14年（1817）梅宮神社（狭山市下奥富）に奉納されたと伝えられる。



(9)仕込之部：麴、酒のもと、蒸米、水をまぜる



(10)槩遺之部：もろみ（仕込まれたもの）をかきまぜる



(11)揚船之部：もろみを絞って原酒と酒粕に分ける



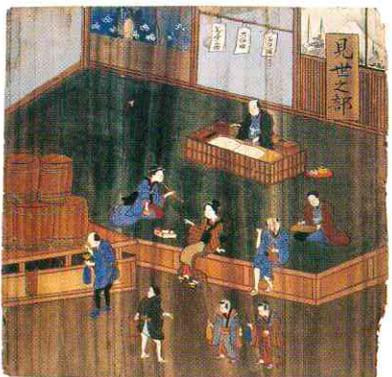
(12)滞引之部：原酒のにごりをとって、清酒にする



(13)火入之部：清酒の酵素の働きをとめ、殺菌する



(14)焼酎之部：酒粕から焼酎をつくる



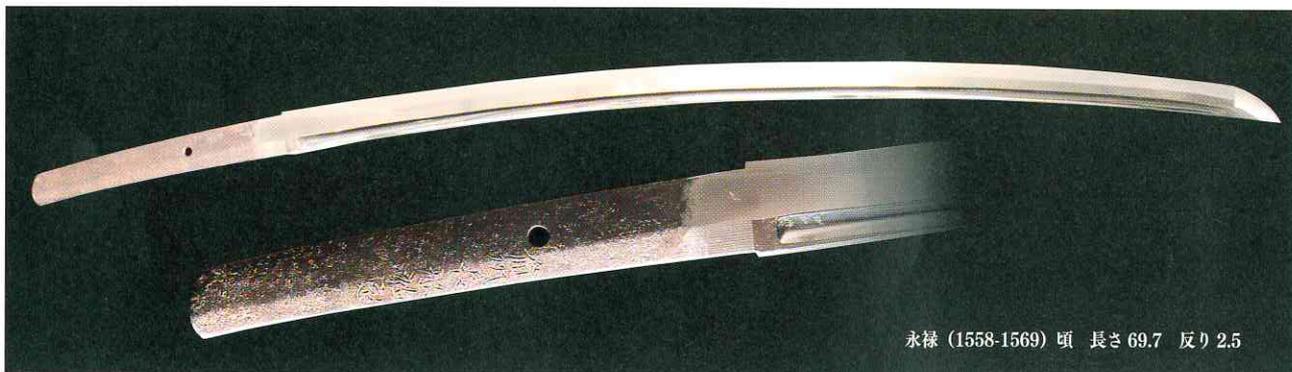
(15)見世之部：酒屋の様子



(16)荷出之部：出荷

②③刀 ◆銘 備州長船祐定

備前国長船派の刀工



永禄 (1558-1569) 頃 長さ 69.7 反り 2.5

②④脇差 ◆銘 高田住行久

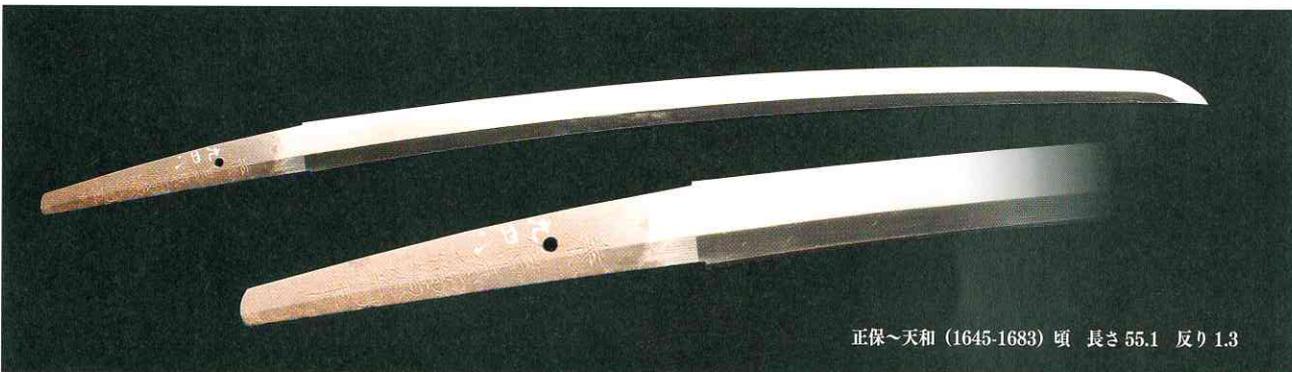
豊後国高田派の刀工



天正 (1573-1593) 頃 長さ 45.2 反り 0.9

②⑤脇差 ◆銘 泰信法橋源光平

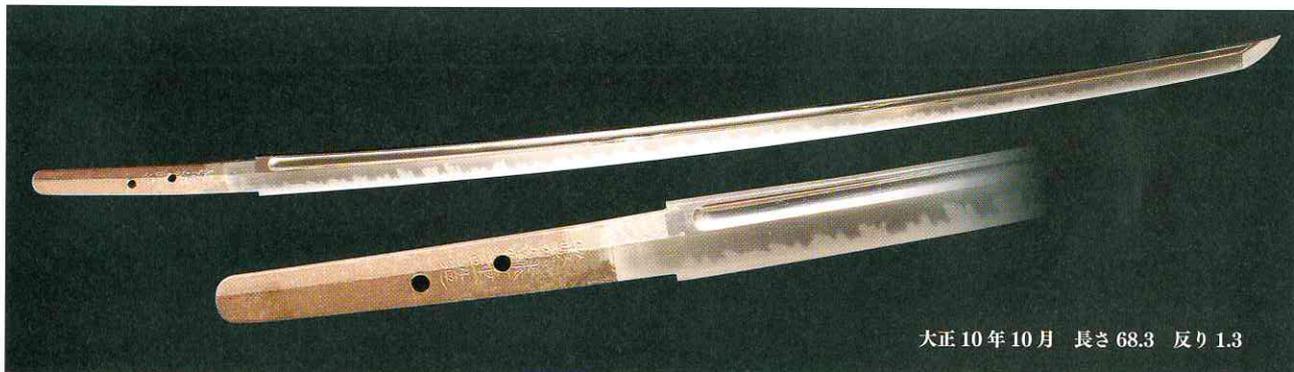
武蔵国江戸石堂派の刀工。第2次世界大戦後、連合国占領軍に接收された刀剣。本作品は東京赤羽に集められたもので、赤羽刀ともいう。



正保~天和 (1645-1683) 頃 長さ 55.1 反り 1.3

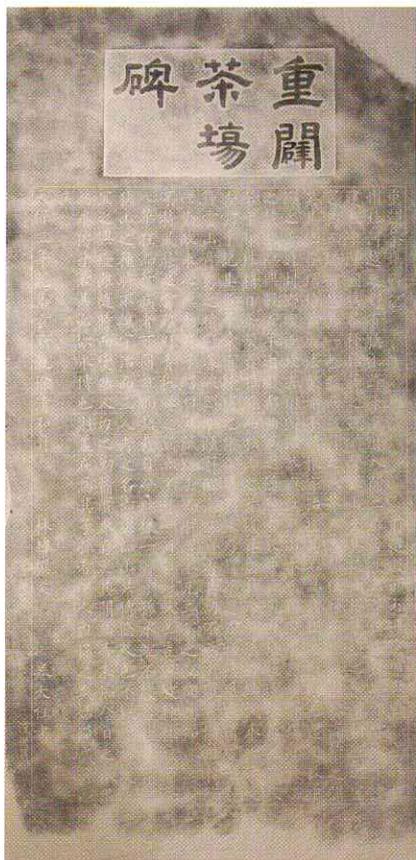
②⑥太刀 ◆銘 繁継謹造

繁継は笠間一貫斎繁継といい、本名は笠間義一。宮内省（現宮内庁）御刀係を拝命、多くの献上刀を作製した。本作品は、恩賜刀剣。



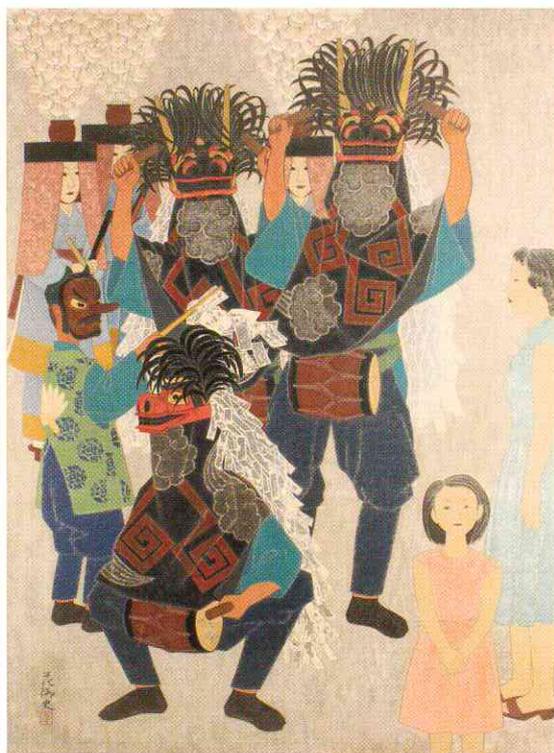
大正10年10月 長さ 68.3 反り 1.3

③①重瀨茶場碑 ◆巻大任書



1832 拓本 176.0 × 86.5

⑮獅子舞 ◆大塚花御史



1955 紙本着色 260.0 × 200.0

⑩遊 ◆小谷野浩一



不詳 紙本着色 116.0 × 180.0

③①巻大任 (まきたいにん)
(1777 - 1843)

越後国巻 (現新潟県新潟市) 生まれ。号は菱湖。書家の亀田鵬斎に師事して書と詩を学ぶ。市河米庵、貫名海屋とともに「幕末の三筆」と称された。

題額は松平定常、碑文は昌平鬘の塾頭も努めた林樞が作成。

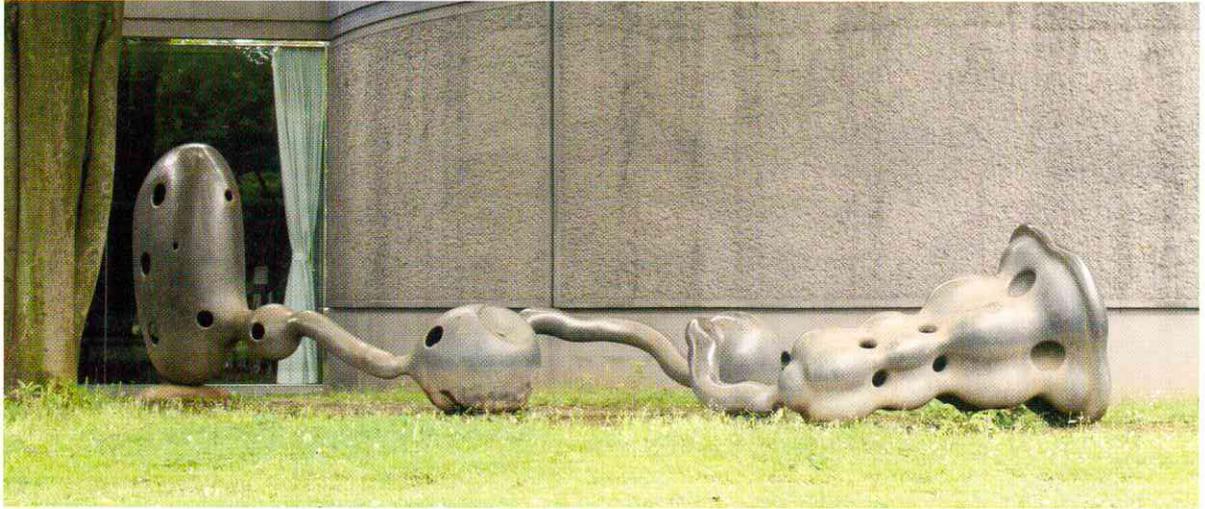
⑮大塚花御史 (おおつかかごし) (1924 -)

東京生まれ。奥村土牛門下。戦後 (昭和 23-30 年) 現在の狭山市柏原に居住し、数多くの作品を制作した。本作品は、第 7 回院展に入選したもので、通産省 (現経済産業省) が日本文化を諸外国に紹介するための資料集にも掲載された。日本美術院院友。日本美術家連盟会員。

⑩小谷野浩一 (こやのこういち) (1905 - 1979)

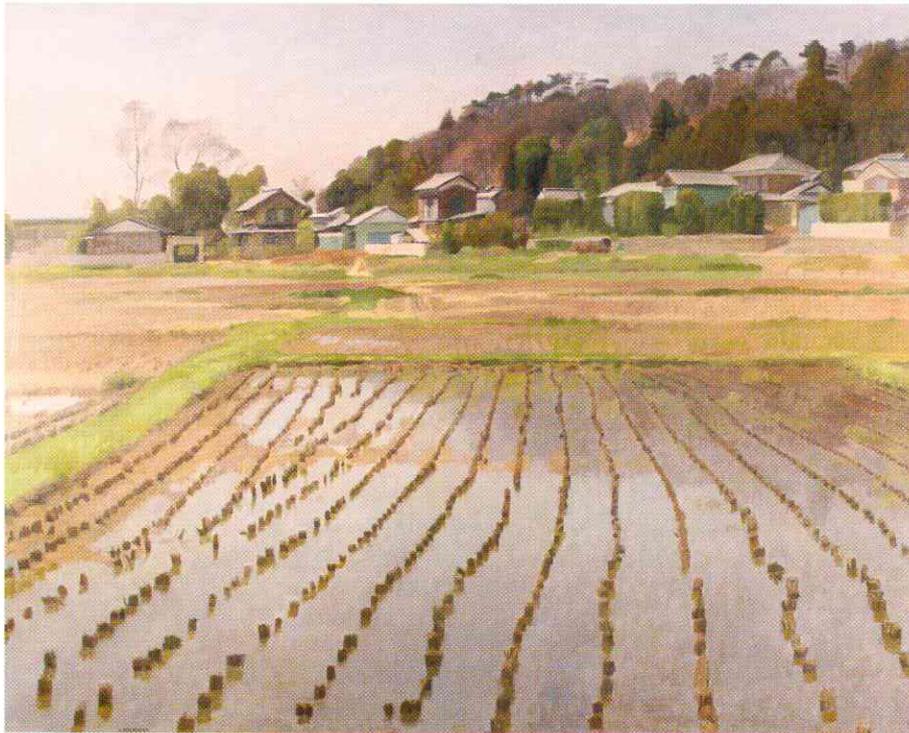
本名儀平。埼玉県入間郡柏原村 (現埼玉県狭山市) 生まれ。狩野光雅に師事。日本画院展入選。第 32 回院展入選。柏原村議会議員、柏原村長、狭山市議会議員、狭山市教育委員等歴任。狭山地域の地方自治にも尽力。

②連鎖運動膜（内的な水辺） ◆橋本真之



1977-94 銅・鍛金 617.0 × 150.0

③武蔵野早春 ◆川村親光



不詳 油彩・キャンヴァス 130.5 × 162.5

③「美術品等取得基金で購入した作品」写真パネル

平成元年度に当市の芸術文化に資するために設置された「美術品等取得基金」で購入した作品。通常は市内の公共施設で管理・展示している。

②橋本真之（はしもとまさゆき）（1947 -）
埼玉県生まれ。東京芸術大学工芸科卒業。在学中に鍛金技術を学ぶ。以後金属による鍛金作品を制作発表。

③川村親光（かわむらちかみつ）（1928 -）
埼玉県浦和市生まれ。寺内萬治郎、高田誠に師事。一水会委員。日展会員。
本作品は、美術品等取得基金により平成7年度に購入したもので、当館の収蔵品ではないが、参考に展示した。通常は狭山市役所1階ロビーに順次展示されている。